

連載

宇宙を観じる生活を！ (36)

～黄華堂ブログ～

黄華堂（代表：有本淳一、ブログ編集長：山道千賀子、小林 弘）

1. はじめに

黄華堂は「子どもたちに本物の星空を！」をモットーに、関西を中心に観望会などの活動をしているボランティアグループです。観望会以外にも、1人でも多くの人に星を見てもらうきっかけになるように、黄華堂ブログ[1]として、星空案内や天文に関する情報をご紹介します。また、ブログの更新はTwitter[2]・Facebook[3]にて通知しています。



図1 65cm 屈折望遠鏡[4]

2. 黄華堂ブログの内容

それまではメールマガジンとして発行していたものを2014年4月から黄華堂ブログとして更新しています。今回はその中から「突撃！隣の天文台 ～国立天文台～」、「突撃！隣の天文台 ～ぐんま天文台～」の2つの記事をご紹介します。

2.1 突撃！隣の天文台～国立天文台～

今回は、日本の天文学の総本山ともいえる国立天文台、その中でも、本部のある三鷹キャンパス[4]をご紹介します。

三鷹キャンパスでは、現在、天文学の観測はほとんど行われていません。しかし、自由に見学のできる常時公開コースがあつて歴史的な天文観測機器を見学したり最新の天文学の成果に触れたりできます。最も注目すべきは天文台歴史館にある口径65cm屈折望遠鏡です(図1)。

この望遠鏡は屈折式としては日本最大で、1960年に岡山天体物理観測所188cm反射望遠鏡が作られるまで日本最大の望遠鏡として様々な観測に用いられてきました。現在は静態保存されているのみですが、その大きさには圧倒されます。

建物内では、国立天文台が保有している貴重書籍などの展示も行われていて、こちらも必見です。ほかにも、歴史的な子午儀を展示している子午儀資料館やゴーチェ子午環室、すばる望遠鏡やアルマ望遠鏡などのしくみや成果を模型や美しい画像で紹介している西棟1階の展示室など、見どころ満載です。

また、月に二回、観望会も実施しています。敷地内にある口径50cm社会教育用公開望遠鏡(図2)で惑星などを観望することができます。都内にある望遠鏡の中では最大級の大きさを誇り、天文学を研究している大学院生による解説が聞けるとあつて、なかなかの人気です。



図2 50cm 社会教育用公開望遠鏡による
観望会[4]

また、スーパーコンピュータによるシミュレーションのデータや、最新の観測装置から得られるデータを、科学的に可視化した立体映像を見ることができる4D2Uシアターも月に四回、公開しており、迫力ある立体映像を見ることができます。観望会と4D2Uシアターは申し込みが必要ですのでご注意ください。

台内は自然も豊かで、かつての武蔵野の面影を残しています。桜に紅葉、四季折々に移りゆく風景も国立天文台を散策する魅力の一つです。ぜひ足を運んでみてください。

(2017年4月24日：塚田/平塚市博物館)

2.2 突撃！隣の天文台～ぐんま天文台～

ご存知の方もいるかもしれませんが、日本の公共天文台にある望遠鏡のいくつかは研究

にも使われています。もう数年前の事になりますが、大学院生の時に群馬県吾妻郡高山村にある「ぐんま天文台」[5]に観測で訪問したことがあるので、その時のお話をしたいと思います。今とは状況が異なっているかもしれませんが、お許してください。

まず、ぐんま天文台を訪れて目に引くのは広場にある大きなモニュメント群です(図3)。奥に見える丸い方はテレビなどで観たことある方もいるかもしれませんが、手前に見えるすべり台のような物はなじみの無い方も多いのではないのでしょうか。丸い方は「ストーンサークル」と呼ばれるもの、すべり台のようなものは「ジャンタル・マンタル」と呼ばれるもので、どちらも遠い昔、実際に使われていた天文学と結びつきの深い道具です。どのように使う道具なのかは是非実際に行き確認してみてください。

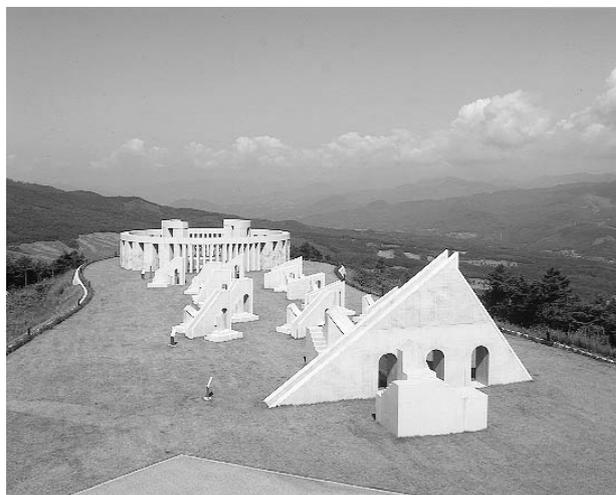


図3 ぐんま天文台の広場[5]

展示スペースには望遠鏡や天体に関する解説が、ややスペースが小さいながらもぎっしりと詰まっていました。特に望遠鏡に関する展示が多く、望遠鏡や観測装置に興味のある人にお勧めです。また、私が気になったのは、太陽のライブ映像です。太陽望遠鏡から取り

込んだ光を展示室に投影して、その瞬間の太陽の観察ができます[6]。観測滞在中に晴れているか、その日の観測ができそうかと晴れて、観測ができるかどうかと気になって覗いたものでした。

観望会は週末と祝日の夕方に行われていますが、予約をすれば平日にも観望することができます。150cmの望遠鏡から、惑星や明るい星などを見ることができます。滞在中にお世話になった職員さんは、簡易分光器を接眼部に付けて星のスペクトルを見せていました。赤い星、青い星がどういうスペクトルをしているか…比べるのは楽しそうですね。観望会の後、朝まで観測させていただいていますが、実はこのとき観測対象の天体を眼視で見せていただきました。普段はパソコンの画面越しにしか見ない天体を実際に目で見ると…何となく感慨深いですね。職員さんは、その時々で『熱い』天体や研究者の方がはまっている天体をお客さんに見せて、研究者の人にその『熱さ』を語ってほしいなあ、と仰っていました。今実現しているといいなと思います。

実はぐんま天文台は、私が訪問した2年後に、運用方針などを見直すことになりましたが、今も観望会や公開講座を行う一方で、研究データも提供してくれています。機会があれば是非訪れてみてください。

(2017年2月16日：森谷/カブリ IPMU)

文 献

- [1] 黄華堂ブログ
<http://oukado.jugem.jp>
- [2] 黄華堂Twitter
<https://twitter.com/oukado>
- [3] 黄華堂Facebook
<https://www.facebook.com/pages/黄華堂/277236582327100>
- [4] 国立天文台三鷹キャンパス
<http://www.nao.ac.jp/access/mitaka/>
- [5] 県立ぐんま天文台
<http://www.astron.pref.gunma.jp/>
- [6] 県立ぐんま天文台 太陽望遠鏡
http://www.astron.pref.gunma.jp/instruments/telescope_solar.html